

登録コード	E7169400	開講年度	2026				
授業科目	卒業研究					担当教員	島田 英昭
英文授業名	Graduation Research					副担当	
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				教育心理学に関する基礎的・応用的な知識を得ることで、教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観を身につける。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				教育心理学に関する基礎的・応用的な知識を得ることで、教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能を身につける。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	教育心理学に関する研究を行う。						
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンス 第 2 回：テーマ設定のしかた 第 3 回：学術論文の探し方、使い方 第 4 回：学術論文の読み方（方法） 第 5 回：学術論文の読み方（結果） 第 6 回：学術論文の読み方（問題と目的） 第 7 回：学術論文の読み方（考察） 第 8 回：書籍の探し方、使い方 第 9 回：書籍の読み方（方法論に関するもの） 第10回：書籍の読み方（各論に関するもの） 第11回：研究計画の立て方（問題設定） 第12回：研究計画の立て方（情報収集） 第13回：研究計画の立て方（方法） 第14回：研究計画の立て方（分析手法） 第15回：研究動向のとりえ方 第16回：学術論文の書き方（方法） 第17回：学術論文の書き方（結果） 第18回：学術論文の書き方（問題と目的） 第19回：学術論文の書き方（考察） 第20回：分析手法の吟味（記述統計） 第21回：分析手法の吟味（統計的仮説検定） 第22回：分析手法の吟味（効果量とメタ分析） 第23回：分析手法の吟味（多変量解析） 第24回：分析手法の吟味（質的手法） 第25回：プレゼンテーションのしかた（組み立て方） 第26回：プレゼンテーションのしかた（問題と目的） 第27回：プレゼンテーションのしかた（方法と結果） 第28回：プレゼンテーションのしかた（考察） 受講者の研究計画と興味に応じ、内容を変更することがある。 授業アンケートを実施する。						
(6)成績評価の方法	●以下を総合して判定する。 卒業論文（80％）、発表と議論への参加（20％） 評価割合は若干の調整を行うことがある。 教育心理学に関する基礎的・応用的な知識を評価する。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可。						
(7)成績評価の基準	【卓越している】教育心理学に関する基礎的・応用的な知識について、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】教育心理学に関する基礎的・応用的な知識について、非常に高い水準にある。 【やや上にある】教育心理学に関する基礎的・応用的な知識について、高い水準にある。 【その水準にある】教育心理学に関する基礎的・応用的な知識について、一定水準にある。						
(8)事前事後学習の内容	●研究に対する情報を収集する。 ●実験・調査を実施する。 ●研究に対する自らのアイデアや実験・調査結果をまとめる。 ●授業内容について、振り返りを行う。 ●授業内容について、書籍やネットなどで復習し、理解を深める。 ●卒業論文を執筆する。 ●この授業は225時間の学修を必要とする内容です。従って、150時間以上の時間外学習が必要となります。						

(9)履修上の注意	●現代教育コース発達・教育心理ユニットの受講を指定された学生に限る。
(10)質問，相談への対応及び連絡先	原則としてメールで対応する。
【教科書】	指定しない。
【参考文献】	内容に応じて随時紹介する。